

AI使い💡 翻訳アプリ開発

中国出身の同級生の役に立ちたい

広島市安佐南区の祇園東中の生徒が、生成人工能（AI）を使って翻訳ウェブアプリを作っている。中国出身の同級生が言葉の壁に困っている様子から発案。授業などで使いやすいう改良を重ねている。

（馬上稔子）

製作したのは、美術・「ヨン」と名付けた。日本創造部の2年平田權士（14）と1年秋田弦輝（13）。アプリは学校での活用を想定し「スクリーンレス」を示す。



アプリの動作を確認する、秋田さん、姜さん、平田さん

安佐南区の生徒 授業で使用想定 改良重ねる

きっかけは平田さんが、小学5年で来日した姜楠さん（14）と同じクラスになったこと。周りあまり話せず、授業中に困っている様子が気になったという。

学校ではタブレット端末などのアプリの利用も制限され、「何かできないか」と秋田さんや顧問と相談。ウェブで使えるアプリの製作を思い立った。

「チャットGPT」などのAIを使い、プログラムを作るためのコードの書き方や、中学生に使いやすいアイデアを調べた。授業中に生徒同士で示し合って活用できるように、表示する文字を大きくするなど工夫を盛り込んだ。

アプリはすでに使えるが、さらに改良したいという。姜さんは「アプリを作ってもらって驚いたし、うれしかった」。平田さんは「使いにくさがないか生徒の視点で考え、他の翻訳アプリとの違いをもっと出していきたい」と話している。